

教科 No.	2101	授業科目	哲学 1	単位数	週1コマ 2単位
担当教員	魚住洋一			開講学期	前期
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上	
<p><b>【授業目標】</b>            哲学とは、通常われわれが自明の前提とし、問われないままである「常識」をあえて問おうとする企てである。この講義では、哲学的に「考える」とはどういうことか、を理解し習得することを目標とする。</p> <p><b>【授業概要】</b>            この講義は、哲学入門を狙いとするが、さまざまな具体的問題を、現代哲学の動向に照らしつつ考察することで、哲学とは何かを明らかにしたい。(授業内容に一部変更はありうる)</p> <p><b>【授業内容】</b>            第1回 「常識」について            通常われわれが自明と見做す「常識」をあえて問おうとする哲学の企てを素描する。            第2回～第4回 「見る」とはどういうことか?—大森荘蔵「立ち現われ—元論」について            実在と仮象の区別を、「ある」か「ない」かという存在の区別ではなく、何かがわれわれに立ち現われる現われ方の副詞的区別として語る大森荘蔵の「現象学的」ともいべき議論を辿る。            第5回～第7回 言語とは何か?—ソシュールを手掛かりに            「言語には差異しかない」と語り、従来の言語論の考えをコベルニクス的に転換させたソシュールの議論の意味を問う。            第8回～第10回 はじめに反復があった—デリダの哲学            「まずオリジナルがあって、そのちコピーがある」という考えを否定し、すべてはコピーだと見做すデリダの考えについて、彼がジョン・サルと行なった論争などを手掛かりとして考察する。            第11回～第13回 これはパイプではない—フーコーのマグリット論            フーコーが『これはパイプではない』のなかで、マグリットを手掛かりとしながら考察したイメージと言葉の「関係」、というよりはむしろ「無関係」について、フーコーのテクストを実際にともに読みながら考える。</p> <p><b>【評価方法】</b>            期末試験により評価する。            講義内容を要約させ、哲学的思考の筋道をどれだけ論理的に辿ることができるか、を評価する。</p>					

教科 No.	2102	授業科目	哲学 2	単位数	週1コマ 2単位
担当教員	魚住洋一			開講学期	後期
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上	
<p><b>【授業目標】</b>            前期と同じ。</p> <p><b>【授業概要】</b>            この講義は、前期と同じく哲学入門を狙いとするが、後期では、倫理学あるいは社会哲学の諸問題を論じたい。(授業内容に一部変更はありうる)</p> <p><b>【授業内容】</b>            第1回～第3回 Why be moral?—なぜ人を殺してはいけないのか?            なぜわれわれは悪いことをしてはいけないのか? 法や倫理といった社会規範になぜわれわれは従わなければならないのか? こうした問いに対する社会契約論や功利主義の解答を検討しながら、そうした議論が社会規範の存在を正当化できるかどうかを考える。            第4回～第6回 セックス/ジェンダー/セクシュアリティ—「性」をめぐる            「ひとは女に生まれ、女になるのだ」というボーヴォワールの言葉に示されるフェミニズムの主張に耳を傾けながら、「性」を脱-自然化することによって、新たな「性」のあり方を模索したい。            第7回～第9回 〈私〉のポリティックス—ミシェル・フーコー『監獄の誕生』を読む            軍隊、工場、学校、刑務所などにおける規律・訓練のシステムによる「従順な身体」の形成について語り、「主体化」が同時に「隷属化」であることを示したフーコーの代表作を読み解いていく。            第10回～第12回 スケープゴートをめぐって—排除の論理            「われわれを作り上げるためには、〈かれら〉をでっちあげなければならない」と語ったのは、精神医学者レインであるが、共同体の形成につねに伴うような、共同体から誰かを締め出す排除の働きについて考察する。            第13回～第14回 他者としての〈私〉—ラカン、ワロン、そしてレイン            「私とは一個の他者である」と語ったのはランボーだが、ここではラカンの「鏡像段階」の議論、ワロンの「癒合的社会性」の議論、レインの「自分であるふりをする」坊やの例などを手掛かりに、自他の無差別という幼児の〈私〉のありかたを探る。</p> <p><b>【評価方法】</b>            前期と同じ。</p>					

教科 No.	2103	授業科目	人間学	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	三木博			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b>  「人間とは何か」。この古くからあり、また常に新たによみがえってくる問いをめぐって、芸術理解を深めるための機縁としながら、広範な人間学の近年の知見をもとにしながら、新たな人間像の可能性を探る。</p> <p><b>【授業概要】</b>  今日の人間学の多彩な研究状況について、いくつかのキーワード（自己・身体・時間など）を軸にしながら、その思想的背景とともに解説する。また数名の思想家とその著作の紹介・解説を交えながら、芸術理解を深める。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. シュタイナーにおける人間観</td> </tr> <tr> <td>2. 自覚の構造－牛図における人間観－</td> <td>10. 人間学と動物論</td> </tr> <tr> <td>3. レッジョ・エミリアにおける人間観</td> <td>11. 人間学の身体論－「身の構造」－</td> </tr> <tr> <td>4. 「縮み」志向の日本人－日本文化論Ⅰ－</td> <td>12. 人間学の時間論</td> </tr> <tr> <td>5. 甘えの構造－日本文化論Ⅱ－</td> <td>13. 人間学の記憶論</td> </tr> <tr> <td>6. 岩井俊雄－マルチ・メディア－</td> <td>14. 討議課題による演習</td> </tr> <tr> <td>7. アヴェロン野性児－教育の人間学－</td> <td>15. 試験</td> </tr> <tr> <td>8. 野生の少年－トリュフォー－</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b>  小レポートの提出および期末試験</p>						1. オリエンテーション	9. シュタイナーにおける人間観	2. 自覚の構造－牛図における人間観－	10. 人間学と動物論	3. レッジョ・エミリアにおける人間観	11. 人間学の身体論－「身の構造」－	4. 「縮み」志向の日本人－日本文化論Ⅰ－	12. 人間学の時間論	5. 甘えの構造－日本文化論Ⅱ－	13. 人間学の記憶論	6. 岩井俊雄－マルチ・メディア－	14. 討議課題による演習	7. アヴェロン野性児－教育の人間学－	15. 試験	8. 野生の少年－トリュフォー－	
1. オリエンテーション	9. シュタイナーにおける人間観																				
2. 自覚の構造－牛図における人間観－	10. 人間学と動物論																				
3. レッジョ・エミリアにおける人間観	11. 人間学の身体論－「身の構造」－																				
4. 「縮み」志向の日本人－日本文化論Ⅰ－	12. 人間学の時間論																				
5. 甘えの構造－日本文化論Ⅱ－	13. 人間学の記憶論																				
6. 岩井俊雄－マルチ・メディア－	14. 討議課題による演習																				
7. アヴェロン野性児－教育の人間学－	15. 試験																				
8. 野生の少年－トリュフォー－																					

教科 No.	2104	授業科目	歴史学 1	単位数	週1コマ 2単位
担当教員	○田中晶子			開講学期	前期
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上	
<p>今年度休講</p>					

教科 No.	2105	授業科目	歴史学 2	単位数	週1コマ 2単位
担当教員	○田中晶子			開講学期	後期
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上	
<p>今年度休講</p>					

教科 No.	2106	授業科目	文学概論		単位数	週1コマ 2単位
担当教員	柏木加代子				開講学期	前期
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上		
<h2 style="margin: 0;">今年度休講</h2>						

教科 No.	2107	授業科目	美学		単位数	週1コマ 2単位		
担当教員	加須屋明子				開講学期	前期		
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上				
<p><b>【授業目標】</b> 美学および芸術理論の基礎的なものの考え方を概観する。とくに「感性」という語をキーワードとして、そこから生起する想像力の意味をさぐる。</p> <p><b>【授業概要】</b> 美学あるいは感性論の名のもとに切り開かれた地平を検証し、基礎的な理論を順次踏査するとともに、その今日の意味と可能性を問い直す。なお、芸術の具体的な現象分析が不可欠なので、画像など視聴覚メディアを最大限に活用する予定である。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 美学のなりたち1</li> <li>3. 美学のなりたち2</li> <li>4. 美について1</li> <li>5. 美について2</li> <li>6. 美的体験</li> <li>7. 美的価値</li> <li>8. 解釈</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>9. 芸術の歴史性</li> <li>10. 造形芸術における時間</li> <li>11. 芸術の起源へ</li> <li>12. 芸術作品の構造</li> <li>13. 現代社会と芸術1</li> <li>14. 現代社会と芸術2</li> <li>15. まとめ</li> </ul> </td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> レポートまたは筆記試験。</p> <p><b>【履修上の注意】</b></p> <p><b>【参考書等】</b> 『西洋美学史』小田部 胤久 2,940円</p> <p>※備考 芸術学概論と合同授業</p>							<ul style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 美学のなりたち1</li> <li>3. 美学のなりたち2</li> <li>4. 美について1</li> <li>5. 美について2</li> <li>6. 美的体験</li> <li>7. 美的価値</li> <li>8. 解釈</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>9. 芸術の歴史性</li> <li>10. 造形芸術における時間</li> <li>11. 芸術の起源へ</li> <li>12. 芸術作品の構造</li> <li>13. 現代社会と芸術1</li> <li>14. 現代社会と芸術2</li> <li>15. まとめ</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 美学のなりたち1</li> <li>3. 美学のなりたち2</li> <li>4. 美について1</li> <li>5. 美について2</li> <li>6. 美的体験</li> <li>7. 美的価値</li> <li>8. 解釈</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>9. 芸術の歴史性</li> <li>10. 造形芸術における時間</li> <li>11. 芸術の起源へ</li> <li>12. 芸術作品の構造</li> <li>13. 現代社会と芸術1</li> <li>14. 現代社会と芸術2</li> <li>15. まとめ</li> </ul>							

教科 No.	2108	授業科目	社会学 1	単位数	週1コマ 2単位
担当教員	○翁 和美			開講学期	前期
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上	
<b>【授業目標】</b>					
<p>女男の性差を、人間社会・文化を構成している現象の一つとして理解するだけでなく、分析概念として社会・文化的事象や社会・文化そのものを読み解くツールにまで高める力を養うことで、生き方の幅を広げる。</p>					
<b>【授業概要】</b>					
<p>私たちは性別をめぐる社会関係や相互作用の中で生きている。それは単なる生物学的異なりではなく、社会・文化的に付与された意味の差(=ジェンダー)に基づいている。授業では、現代日本社会のジェンダーが構築された社会・文化的背景を考察しつつ、現代日本社会の課題をジェンダーを切り口に議論する。</p>					
<b>【授業内容】</b>					
<p>1. ジェンダーとは何か (1): ジェンダーを切り口に現代日本社会および自己を見る 2. ジェンダーとは何か (2): 性差の根拠を考え、その恣意性に気づく 3. 近代的ジェンダー秩序の形成: 「近代家族」が形成される過程を知る 4. 市場再生産装置としての「近代家族」 5. 日本における「戦後家族モデル」 6. 「愛ある家族」イデオロギー・心理の成立 7. 夫婦関係をめぐるジェンダー 8. 学校制度および教育をめぐるジェンダー</p>					
<p>9. 老いをめぐるジェンダー 10. ドメスティック・バイオレンスをめぐるジェンダー 11. 性別役割分業と「女らしさ」と「男らしさ」をめぐる政治 12. 性的マイノリティから考える (1) 同性愛から強制的異性愛主義をとらえる 13. 性的マイノリティから考える (2) 「性同一性障害」から考察する 14. まとめ (内容はリアクション・ペーパーにしたがう) 15. まとめ (内容はリアクション・ペーパーにしたがう)</p>					
<b>【評価方法】</b>					
<p>各種課題によって総合評価をする。各種課題にはリアクション・ペーパーの提出とレポート試験が含まれる。</p>					
<b>【履修上の注意】</b>					
<p>欠席回数による失格条件は設定しないが、授業内での課題の提出が評価に大きく反映するので、3回以上の欠席は失格につながる。</p>					
<b>【参考書等】</b>					
<p>授業中に適宜、紹介する。</p>					
<p>※ 備考 本授業はタイトルが社会学、サブ・タイトルがジェンダー論である。したがって、社会・文化的事象や社会・文化そのものを社会的にアプローチするパースペクティブを養成することが大前提にある。授業の終わりにリアクション・ペーパーを書いてもらうが、授業内容とこれまでの自分の経験や知識を照らして、社会的存在である自己の存在と自分が生きて暮らしている現代日本社会を客観的に見出す姿勢を期待したい。</p>					

教科 No.	2109	授業科目	社会学 2	単位数	週1コマ 2単位
担当教員	○渡邊拓也			開講学期	後期
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上	
<b>【授業目標】</b>					
<p>犯罪社会学を学ぶなかで、犯罪/非行(少年犯罪)という社会のそして誰もが持つ心の影の部分について考え、「裏側から見る」ことによって、人間存在のより総合的な理解を目指す。</p>					
<b>【授業概要】</b>					
<p>誰もが加害者/被害者に転じうる現代社会を生きる上で、犯罪および犯罪者に対する理解を深めておくことは重要である。本講義は犯罪社会学を中心に、具体的な事例を取り上げつつ、犯罪研究の黎明期から現在に至るまでの主要学説を紹介し、最終的には人間存在の総合的理解が目指される。</p>					
<b>【授業内容】</b>					
<p>1. 問題への導入: 白い羊と黒い羊 2. 犯罪学前史 (1): 古典派刑法学の成立 3. 犯罪学前史 (2): 新派刑法学と初期の犯罪学 4. 財産犯(経済犯): 窃盗、詐欺など 5. 粗暴犯: 暴行、傷害など 6. 性犯罪 (1): 暴力的性犯罪 7. 性犯罪 (2): その他の性犯罪 8. 凶悪犯 (1): 連続殺人とパーソナリティ障害</p>					
<p>9. 凶悪犯 (2): 快楽殺人とプロファイリング 10. 幼児虐待とネグレクト 11. 犯罪社会学の諸理論 (1): 緊張理論 12. 犯罪社会学の諸理論 (2): 文化的逸脱論 13. 犯罪社会学の諸理論 (3): 統制理論 14. 結論: コントローラー—黒い羊を飼い馴らす 15. 期末試験</p>					
<b>【評価方法】</b>					
<p>期末試験により評価する。</p>					
<b>【履修上の注意】</b>					
<b>【教科書】</b>					
<b>【参考書等】</b>					
<p>授業中に適宜紹介する。</p>					

教科 No.	2110	授業科目	哲学特論 1	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	魚住洋一			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> この授業では、哲学あるいは現代思想のテキストを実際に「読む」ことを課題とする。知識を得るためではなく、考えるために読むこと、著者の思考の歩みを一步一步辿りつつ精読することが問題となる。</p> <p><b>【授業概要】</b> 今回は、「アウラの消失」と複製技術の出現という芸術の危機のなかで、芸術がそれをどう乗り越えるかという問題を考察した、ヴァルター・ベンヤミンの『複製技術時代の芸術作品』、および、写真とは「かつてあった」ものである、と語るロラン・バルトの写真論、『明るい部屋——写真についての覚書』の前半を講読する。哲学者によって書かれた写真や映画についてのテキストを、この授業では「哲学的」に読み解いていきたい。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. はじめに ヴァルター・ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』Ⅰ～Ⅱ</td> <td>9. 同上 4. 「撮影者」、「幻像」、「観客」 5. 撮影される人</td> </tr> <tr> <td>2. 同上 Ⅲ～Ⅳ</td> <td>10. 同上 6. 「観客」——その無秩序な好み 7. 冒険としての「写真」 8. 鷹揚な現象学 9. 二重性</td> </tr> <tr> <td>3. 同上 Ⅴ～Ⅶ</td> <td>11. 同上 10. 「スタジオム」と「フンクトム」 11. 「スタジオム」 12. 知らせること 13. 描くこと</td> </tr> <tr> <td>4. 同上 Ⅷ～Ⅹ</td> <td>12. 同上 14. 不意にとらえること 15. 意味すること 16. 欲望をかきたてること 17. 単一な「写真」</td> </tr> <tr> <td>5. 同上 Ⅺ～ⅩⅢ</td> <td>13. 同上 18. 「スタジオム」と「フンクトム」の共存 19. 「フンクトム」——部分的特長 20. 無意志的特長 21. 惜り</td> </tr> <tr> <td>6. 同上 ⅩⅣ～ⅩⅥ</td> <td>14. 同上 22. 事後と沈黙 23. 見えない場 24. 前取り消し</td> </tr> <tr> <td>7. 同上 ⅩⅦ～ⅩⅨ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. ロラン・バルト『明るい部屋——写真についての覚書』 1. 「写真」の特殊性、2. 分類しがたい「写真」、3. 出発点としての感動</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 毎回の質疑や発言の内容など、平常点により評価する。 哲学的議論にどれだけコミットすることができるかが評価の対象となる。出席回数も重視する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 毎回テキストをほぼ10ページずつ読み進むが、演習形式で、毎回、段落ごとに双方向的な質疑応答を行なうことを軸に授業を進める。毎回発言を求められるので、受講者はテキストを必ず熟読し、質問や意見などをあらかじめ準備しておくこと。</p> <p><b>【教科書】</b> 多木浩二『ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品精読」、岩波現代文庫、¥900＋税 なお、ロラン・バルト『明るい部屋——写真についての覚書』（みすず書房）の入手方法については、授業中に指示する。</p>						1. はじめに ヴァルター・ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』Ⅰ～Ⅱ	9. 同上 4. 「撮影者」、「幻像」、「観客」 5. 撮影される人	2. 同上 Ⅲ～Ⅳ	10. 同上 6. 「観客」——その無秩序な好み 7. 冒険としての「写真」 8. 鷹揚な現象学 9. 二重性	3. 同上 Ⅴ～Ⅶ	11. 同上 10. 「スタジオム」と「フンクトム」 11. 「スタジオム」 12. 知らせること 13. 描くこと	4. 同上 Ⅷ～Ⅹ	12. 同上 14. 不意にとらえること 15. 意味すること 16. 欲望をかきたてること 17. 単一な「写真」	5. 同上 Ⅺ～ⅩⅢ	13. 同上 18. 「スタジオム」と「フンクトム」の共存 19. 「フンクトム」——部分的特長 20. 無意志的特長 21. 惜り	6. 同上 ⅩⅣ～ⅩⅥ	14. 同上 22. 事後と沈黙 23. 見えない場 24. 前取り消し	7. 同上 ⅩⅦ～ⅩⅨ		8. ロラン・バルト『明るい部屋——写真についての覚書』 1. 「写真」の特殊性、2. 分類しがたい「写真」、3. 出発点としての感動	
1. はじめに ヴァルター・ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』Ⅰ～Ⅱ	9. 同上 4. 「撮影者」、「幻像」、「観客」 5. 撮影される人																				
2. 同上 Ⅲ～Ⅳ	10. 同上 6. 「観客」——その無秩序な好み 7. 冒険としての「写真」 8. 鷹揚な現象学 9. 二重性																				
3. 同上 Ⅴ～Ⅶ	11. 同上 10. 「スタジオム」と「フンクトム」 11. 「スタジオム」 12. 知らせること 13. 描くこと																				
4. 同上 Ⅷ～Ⅹ	12. 同上 14. 不意にとらえること 15. 意味すること 16. 欲望をかきたてること 17. 単一な「写真」																				
5. 同上 Ⅺ～ⅩⅢ	13. 同上 18. 「スタジオム」と「フンクトム」の共存 19. 「フンクトム」——部分的特長 20. 無意志的特長 21. 惜り																				
6. 同上 ⅩⅣ～ⅩⅥ	14. 同上 22. 事後と沈黙 23. 見えない場 24. 前取り消し																				
7. 同上 ⅩⅦ～ⅩⅨ																					
8. ロラン・バルト『明るい部屋——写真についての覚書』 1. 「写真」の特殊性、2. 分類しがたい「写真」、3. 出発点としての感動																					

教科 No.	2111	授業科目	哲学特論 2	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	魚住洋一			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 前期と同じ。</p> <p><b>【授業概要】</b> 後期は、永井均『翔太と猫のインサイトの夏休み——哲学的諸問題へのいざない』を精読する。永井はこの著書で、「子ども」のための哲学として、平易な言葉で現代哲学の難解な問題を論じているが、彼と「ともに考える」(mitdenken) ことによって、哲学へのいざないに依拠してほしい。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. はじめに</td> <td>9. 第2章 4. カントのはなし pp.126-141</td> </tr> <tr> <td>2. 第1章 いまが夢じゃないって証拠はあるか 1. ぼくらは培養器の中の脳か pp.11-30</td> <td>10. 第3章 ささまざまな可能性の中でこれが正しいという根拠はあるか 1. 善悪の客観的な基準はあるか pp.142-154</td> </tr> <tr> <td>3. 第1章 2. 本当であるとは？ pp.30-44</td> <td>11. 第3章 承前 pp.155-168</td> </tr> <tr> <td>4. 第1章 3. 見える世界とほんとうの世界 4. デカルトのはなし pp.44-67</td> <td>12. 第3章 2. 住んでる世界が違う？ pp.168-184</td> </tr> <tr> <td>5. 第2章 たくさんの人間の中に自分という特別なものがあるとはどういうことか 1. 他人には心がない？ pp.68-82</td> <td>13. 第3章 3. 意味は存在しない！ pp.184-196</td> </tr> <tr> <td>6. 第2章 2. 心があるとは？ pp.82-95</td> <td>14. 第3章 4. ウィトゲンシュタインのはなし pp.196-208</td> </tr> <tr> <td>7. 第2章 3. ぼくは存在する！ pp.95-110</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 第2章 承前 pp.111-125</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 前期と同じ。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 毎回テキストをほぼ20ページずつ読み進むが、演習形式で、毎回、段落ごとに双方向的な質疑応答を行なうことを軸に授業を進める。毎回発言を求められるので、受講者はテキストを必ず熟読し、質問などをあらかじめ準備しておくこと。</p> <p><b>【教科書】</b> 永井均『翔太と猫のインサイトの夏休み——哲学的諸問題へのいざない』ちくま学芸文庫、¥880</p>						1. はじめに	9. 第2章 4. カントのはなし pp.126-141	2. 第1章 いまが夢じゃないって証拠はあるか 1. ぼくらは培養器の中の脳か pp.11-30	10. 第3章 ささまざまな可能性の中でこれが正しいという根拠はあるか 1. 善悪の客観的な基準はあるか pp.142-154	3. 第1章 2. 本当であるとは？ pp.30-44	11. 第3章 承前 pp.155-168	4. 第1章 3. 見える世界とほんとうの世界 4. デカルトのはなし pp.44-67	12. 第3章 2. 住んでる世界が違う？ pp.168-184	5. 第2章 たくさんの人間の中に自分という特別なものがあるとはどういうことか 1. 他人には心がない？ pp.68-82	13. 第3章 3. 意味は存在しない！ pp.184-196	6. 第2章 2. 心があるとは？ pp.82-95	14. 第3章 4. ウィトゲンシュタインのはなし pp.196-208	7. 第2章 3. ぼくは存在する！ pp.95-110		8. 第2章 承前 pp.111-125	
1. はじめに	9. 第2章 4. カントのはなし pp.126-141																				
2. 第1章 いまが夢じゃないって証拠はあるか 1. ぼくらは培養器の中の脳か pp.11-30	10. 第3章 ささまざまな可能性の中でこれが正しいという根拠はあるか 1. 善悪の客観的な基準はあるか pp.142-154																				
3. 第1章 2. 本当であるとは？ pp.30-44	11. 第3章 承前 pp.155-168																				
4. 第1章 3. 見える世界とほんとうの世界 4. デカルトのはなし pp.44-67	12. 第3章 2. 住んでる世界が違う？ pp.168-184																				
5. 第2章 たくさんの人間の中に自分という特別なものがあるとはどういうことか 1. 他人には心がない？ pp.68-82	13. 第3章 3. 意味は存在しない！ pp.184-196																				
6. 第2章 2. 心があるとは？ pp.82-95	14. 第3章 4. ウィトゲンシュタインのはなし pp.196-208																				
7. 第2章 3. ぼくは存在する！ pp.95-110																					
8. 第2章 承前 pp.111-125																					

教科 No.	2112	授業科目	現代思想 1	単位数	週1コマ 2単位
担当教員	魚住洋一			開講学期	前期
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上	
<p><b>【授業目標】</b> 現代思想が、現代という時代状況のなかで、どのような問題についてどのような取り組みを行っているかを、特定のテーマに焦点を絞って考察することで、現代思想についてより立ち入った理解を得ることを目的とする。</p> <p><b>【授業概要】</b></p> <p><b>【授業内容】</b> 第1回～第2回 贈与をめぐる——クラ交易とポトラッチ 人類学者マリノフスキーとモースによって考察されたトロブリアント諸島のクラ交易とネイティブ・アメリカンのポトラッチを手掛かりに、経済交換に還元されない贈与交換について考える。モノを贈るということがより多くの返礼の獲得を目指すのではないとすれば、「贈与」とはいったい何なのだろうか？ 第3回～第5回 消費社会の記号論——ボードリヤールを読む 社会学者ボードリヤールは、「消費されるモノになるためには、モノは記号にならなければならない。モノは記号になることによって、その物質性においてではなくその差異性において消費される」と語り、現代社会においてモノが消費されるのは、有用性によるのではなく、むしろ他のモノとの差異性によると述べたが、『消費社会の神話と構造』で述べられた消費社会に関する彼のこうした批判的分析を考察の対象としたい。この著作は、デザインとは何かを考えるうえで必読の書である。 第6回～第8回 暗闇のなかの跳躍——ウィトゲンシュタインのパラドックス 規則に従うことに関するパラドックスをめぐるウィトゲンシュタイン『哲学探究』の議論を検討するなかから、他者とのコミュニケーションはいかにして可能か、という問題を考えていきたい。 第9回～第12回 メルロ＝ポンティ——身体性の現象学から肉の存在論へ 身体を「私」という人称的主体に先立つ先人称的主体と考えたメルロ＝ポンティが、さらに進んで、そうした身体がそこから現われてくる根源としての「肉」について語り出していく思考過程を辿り直す。</p> <p><b>【評価方法】</b> 期末試験により評価する。講義内容を要約させ、哲学的思考の筋道をどれだけ論理的に辿ることができるか、を評価する。 ※備考 ビジュアル・デザイン4回生は、第1回～第5回の「贈与をめぐる」と「消費社会の記号論」をできるかぎり受講すること。ただし、単位が不要であれば、受講登録はしなくてよい。</p>					

教科 No.	2113	授業科目	現代思想 2	単位数	週1コマ 2単位
担当教員	魚住洋一			開講学期	後期
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上	
<p><b>【授業目標】</b> 前期と同じ。</p> <p><b>【授業概要】</b></p> <p><b>【授業内容】</b> 1. 第1回～第4回 フロイトと無意識——エネルギー論と解釈学の混合話法 リケールは、フロイトの無意識をめぐる議論を哲学的に読み解きながら、フロイトの精神分析は、力と意味の混合話法、つまり、機械論的なエネルギー論と夢や症状の解釈に基づく解釈学の混合話法から成り立っており、この両者をどちらか一方に解消することはできない、と主張したが、そうしたリケールがフロイトから導き出す「主体のアルケオロジー」について考察する。 第5回～第7回 哲学と／の狂気——デカルト、フーコー、そしてデリダ すべては疑わしい、しかし疑っている私の存在だけは疑えない、というデカルトのいわゆる「方法的懐疑」をめぐる、デカルトのコギト(思考)は狂うことができないとするフーコー、いやデカルトのコギトは狂気にかぎりなく接近したのだとするデリダ、この両者の議論を追いながら、哲学と狂気の関係を考える。 第8回～第10回 性的欲望とは何か?——英米の「性の哲学」 70年代から英米の哲学界においてはじまったセックスについての議論を検討する。「性的」とはいったいどういうことか、われわれが行なう行為を「性的」にするものはいったい何なのかという問いに対し、ネーゲルなどの「現象学的記述」とソープルなどの「概念分析」の双方がどう答えたかを確かめたい。 第11回～第13回 ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』を読む ベンヤミンのこの有名な著作のなかで複製芸術として語られているのは、しばしば誤解されるように版画や写真ではなく、むしろ映画である。彼がこのテキストで語ろうとしたのは、いわゆる「アウラの消失」という芸術の凋落の危機をむしろ逆手にとって、役者たちをまるで小道具のように使いながら、モンタージュという手法を駆使しつつ、現実の模倣(mimesis)ではなく映像と音響の遊戯(Spiel)として芸術の再興を企てようとする映画の出現についてであった。そうした彼の考えをベンヤミンのテキストのなかから読み取ってきたい。</p> <p><b>【評価方法】</b> 期末試験により評価する。講義内容を要約させ、哲学的思考の筋道をどれだけ論理的に辿ることができるか、を評価する。</p>					

教科 No.	2114	授業科目	考古学	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	○千葉豊			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> モノである考古資料から、なぜ歴史が復元できるのか、その学問的手続きを学び、考古学に対する関心を高めるとともに、考古学関連書を読み解く力をつける。</p> <p><b>【授業概要】</b> 考古学は過去の人間が残した物的資料にもとづいて、人類の過去を復元することを目的としている。本講義では、この目的を達するために開発されてきた、さまざまな研究法を解説しつつ、考古学が人類の過去について明らかにしうること、あるいは明らかにできなかったことについて、具体例を挙げつつ概術する。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 導入ー考古学の性格と目的</td> <td>9. 考古資料の機能をどう推定するか</td> </tr> <tr> <td>2. 考古学の先覚者たちー考古学の歴史</td> <td>10. なぜモノは変化するのかー考古学における説明</td> </tr> <tr> <td>3. なにが残されているかー考古資料の多様性</td> <td>11. 人類は何を食べてきたかー生業と食性について</td> </tr> <tr> <td>4. 考古資料の収集ー発掘調査の方法について</td> <td>12. 技術の考古学ー道具利用の歴史</td> </tr> <tr> <td>5. 考古資料の年代をどう決定するか（1）</td> <td>13. 交易と交換の考古学</td> </tr> <tr> <td>6. 考古資料の年代をどう決定するか（2）</td> <td>14. 考古学からみた自分史ー人類進化史</td> </tr> <tr> <td>7. 考古資料の分布はなにをあらわすか（1）</td> <td>15. 過去は誰のためのものかー考古学と現代社会</td> </tr> <tr> <td>8. 考古資料の分布はなにをあらわすか（2）</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 出席 50%，期末試験 50% の割合で総合して、評価する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 30 分以上の遅刻は、欠席とみなす。毎回出席をとります。</p> <p><b>【教科書】</b></p> <p><b>【参考書等】</b> コリン・レンフルー＋ポール・バーン『考古学』東洋書林、2007 年</p> <p>※備考 次年度休講予定</p>						1. 導入ー考古学の性格と目的	9. 考古資料の機能をどう推定するか	2. 考古学の先覚者たちー考古学の歴史	10. なぜモノは変化するのかー考古学における説明	3. なにが残されているかー考古資料の多様性	11. 人類は何を食べてきたかー生業と食性について	4. 考古資料の収集ー発掘調査の方法について	12. 技術の考古学ー道具利用の歴史	5. 考古資料の年代をどう決定するか（1）	13. 交易と交換の考古学	6. 考古資料の年代をどう決定するか（2）	14. 考古学からみた自分史ー人類進化史	7. 考古資料の分布はなにをあらわすか（1）	15. 過去は誰のためのものかー考古学と現代社会	8. 考古資料の分布はなにをあらわすか（2）	
1. 導入ー考古学の性格と目的	9. 考古資料の機能をどう推定するか																				
2. 考古学の先覚者たちー考古学の歴史	10. なぜモノは変化するのかー考古学における説明																				
3. なにが残されているかー考古資料の多様性	11. 人類は何を食べてきたかー生業と食性について																				
4. 考古資料の収集ー発掘調査の方法について	12. 技術の考古学ー道具利用の歴史																				
5. 考古資料の年代をどう決定するか（1）	13. 交易と交換の考古学																				
6. 考古資料の年代をどう決定するか（2）	14. 考古学からみた自分史ー人類進化史																				
7. 考古資料の分布はなにをあらわすか（1）	15. 過去は誰のためのものかー考古学と現代社会																				
8. 考古資料の分布はなにをあらわすか（2）																					

教科 No.	2115	授業科目	文化人類学	単位数	集中30時間 2単位
担当教員	○小松和彦			開講学期	前期
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上	
<p>今年度休講</p>					

教科 No.	2116	授業科目	比較文芸論	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	柏木加代子			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b>  明治期以降の日仏文芸の潮流を、双方の社会的・歴史的評価の変遷と「価値観」との関連性の中で考察する。</p> <p><b>【授業概要】</b>  19世紀から20世紀にかけての日仏文化交渉を、『博物誌』の著者、ジュール・ルナールの作品を基軸に考察する。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. ジュール・ルナール、文士の生き方</td> <td>9. 「光は当方から」なのか？</td> </tr> <tr> <td>2. 翻訳と原文の間</td> <td>10. 漢学と西洋趣味と</td> </tr> <tr> <td>3. ルナールと『博物誌』</td> <td>11. 西洋詩の移入</td> </tr> <tr> <td>4. ジュール・ルナールの最初の紹介者たち — 上田敏, 山村暮鳥</td> <td>12. 小説というジャンル</td> </tr> <tr> <td>5. 芥川龍之介とルナール</td> <td>13. まとめ</td> </tr> <tr> <td>6. ルナールと岸田國士</td> <td>14. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 太宰治と高見順</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. ジュール・ルナールと交差するまなざし</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b>  学期末レポートによって評価する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b>  テキストを熟読すること。</p> <p><b>【教科書】</b>  『交差するまなざし』朝日出版社 2008年</p> <p><b>【参考書等】</b>  授業中に指示する。</p> <p>※備考 次年度休講予定</p>						1. ジュール・ルナール、文士の生き方	9. 「光は当方から」なのか？	2. 翻訳と原文の間	10. 漢学と西洋趣味と	3. ルナールと『博物誌』	11. 西洋詩の移入	4. ジュール・ルナールの最初の紹介者たち — 上田敏, 山村暮鳥	12. 小説というジャンル	5. 芥川龍之介とルナール	13. まとめ	6. ルナールと岸田國士	14. まとめ	7. 太宰治と高見順	15. まとめ	8. ジュール・ルナールと交差するまなざし	
1. ジュール・ルナール、文士の生き方	9. 「光は当方から」なのか？																				
2. 翻訳と原文の間	10. 漢学と西洋趣味と																				
3. ルナールと『博物誌』	11. 西洋詩の移入																				
4. ジュール・ルナールの最初の紹介者たち — 上田敏, 山村暮鳥	12. 小説というジャンル																				
5. 芥川龍之介とルナール	13. まとめ																				
6. ルナールと岸田國士	14. まとめ																				
7. 太宰治と高見順	15. まとめ																				
8. ジュール・ルナールと交差するまなざし																					

教科 No.	2117	授業科目	原典資料研究 1	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	田畑千秋			開講学期	前期																
履修条件	外国語 8 単位 (英語は最低 4 単位) 以上修得者		履修学年・専攻等	2 年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 写真に関する英語の文献を読み、その分野でよく使われる英語表現に親しむ。</p> <p><b>【授業概要】</b> スナップ写真から記念写真、報道写真、芸術作品に至るまで今日の映像社会で溢れる写真の位置付け、機能を「通時的視点と共時的視点」を織り混ぜて解明する。原著より第 1 章 In Plato's Cave, 第 4 章 The Heroism of Vision を収録。本文中に言及されている写真家の作品については、可能な限り資料は提供するが、受講者もできるだけ図書館などで参照すること。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. In Plato's Cave (pp.7-9)</td> <td>9. pp. 28-31.</td> </tr> <tr> <td>2. pp. 9-11</td> <td>10. pp. 31-34.</td> </tr> <tr> <td>3. pp.11-14.</td> <td>11. pp. 34-35. The Heroism of Vision (pp. 36-37)</td> </tr> <tr> <td>4. pp. 14-17.</td> <td>12. pp. 37-39.</td> </tr> <tr> <td>5. pp. 17-20.</td> <td>13. ハンドアウト</td> </tr> <tr> <td>6. pp. 20-23.</td> <td>14. ハンドアウト</td> </tr> <tr> <td>7. pp. 23-25.</td> <td>15. テスト</td> </tr> <tr> <td>8. pp. 25-28.</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 平常点と試験で評価する。欠席日数が授業日数の 3 分の 1 を超える場合は理由の如何を問わず不可。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 本講座は通常の英語の授業だけでは飽き足りない人向けであるため、英語の評価 B 以上の受講者が望ましい。最初の授業の欠席者は登録を取り消す。</p> <p><b>【教科書】</b> Susan Sontag, 著 <i>On Photography</i> (『写真論』, 英宝社) ¥ 1,600</p> <p><b>【参考書等】</b></p> <p>※備考 次年度休講予定</p>						1. In Plato's Cave (pp.7-9)	9. pp. 28-31.	2. pp. 9-11	10. pp. 31-34.	3. pp.11-14.	11. pp. 34-35. The Heroism of Vision (pp. 36-37)	4. pp. 14-17.	12. pp. 37-39.	5. pp. 17-20.	13. ハンドアウト	6. pp. 20-23.	14. ハンドアウト	7. pp. 23-25.	15. テスト	8. pp. 25-28.	
1. In Plato's Cave (pp.7-9)	9. pp. 28-31.																				
2. pp. 9-11	10. pp. 31-34.																				
3. pp.11-14.	11. pp. 34-35. The Heroism of Vision (pp. 36-37)																				
4. pp. 14-17.	12. pp. 37-39.																				
5. pp. 17-20.	13. ハンドアウト																				
6. pp. 20-23.	14. ハンドアウト																				
7. pp. 23-25.	15. テスト																				
8. pp. 25-28.																					

教科 No.	2118	授業科目	原典資料研究 2	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	田畑千秋			開講学期	後期																
履修条件	外国語 8 単位 (英語は最低 4 単位) 以上修得者		履修学年・専攻等	2 年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 写真に関する英語の文献を読み、その分野でよく使われる英語表現に親しむ。</p> <p><b>【授業概要】</b> 原典資料研究 1 と同じ Susan Sontag 著 <i>On Photography</i> 『写真論』 (英宝社) の後半, <i>The Heroism of Vision</i> の続きを読む。本文中に言及されている写真家の作品については、可能な限り資料は提供するが、受講者もできるだけ図書館などで参照すること。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. pp. 39-42.</td> <td>9. pp. 60-63.</td> </tr> <tr> <td>2. pp. 42-45.</td> <td>10. pp. 63-65.</td> </tr> <tr> <td>3. pp. 45-47.</td> <td>11. pp. 65-67.</td> </tr> <tr> <td>4. pp. 47-49.</td> <td>12. pp. 67-70.</td> </tr> <tr> <td>5. pp. 49-52.</td> <td>13. pp. 70-72.</td> </tr> <tr> <td>6. pp. 53-55.</td> <td>14. ハンドアウト</td> </tr> <tr> <td>7. pp. 55-57.</td> <td>15. テスト</td> </tr> <tr> <td>8. pp. 57-60.</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 平常点と試験で評価する。欠席日数が授業日数の 3 分の 1 を超える場合は理由の如何を問わず不可。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 本講座は通常の英語の授業だけでは飽き足りない人向けであるため、英語の評価 B 以上の受講者が望ましい。最初の授業の欠席者は登録を取り消す。</p> <p><b>【教科書】</b> Susan Sontag, 著 <i>On Photography</i> (『写真論』, 英宝社) ¥ 1,600</p> <p><b>【参考書等】</b></p> <p>※備考 次年度休講予定</p> <p>前期の「原典資料研究 1」の受講者がのぞましい。</p>						1. pp. 39-42.	9. pp. 60-63.	2. pp. 42-45.	10. pp. 63-65.	3. pp. 45-47.	11. pp. 65-67.	4. pp. 47-49.	12. pp. 67-70.	5. pp. 49-52.	13. pp. 70-72.	6. pp. 53-55.	14. ハンドアウト	7. pp. 55-57.	15. テスト	8. pp. 57-60.	
1. pp. 39-42.	9. pp. 60-63.																				
2. pp. 42-45.	10. pp. 63-65.																				
3. pp. 45-47.	11. pp. 65-67.																				
4. pp. 47-49.	12. pp. 67-70.																				
5. pp. 49-52.	13. pp. 70-72.																				
6. pp. 53-55.	14. ハンドアウト																				
7. pp. 55-57.	15. テスト																				
8. pp. 57-60.																					

教科 No.	2119	授業科目	身体と文化	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	上英俊			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b>          身体にまつわる“言い伝え”や“ことわざ”を題材とし、体内で生じる現象について学ぶ。</p> <p><b>【授業概要】</b>          昔の人々が残した言葉や絵画について、科学的根拠をもとに説明し、健康に関する正しい情報を提供するとともに、身体に関して総合的に考える力を養う。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. ガイダンス：授業計画や方法・目的などについて説明する。</td> <td style="width: 50%;">9. 身体のしくみ（2）</td> </tr> <tr> <td>2. 健康とは</td> <td>10. 加齢と身体変化</td> </tr> <tr> <td>3. 食事と栄養（1）</td> <td>11. 絵画に隠された身体のなぞ</td> </tr> <tr> <td>4. 食事と栄養（2）</td> <td>12. 調査（1）</td> </tr> <tr> <td>5. 体重と健康</td> <td>13. 調査（2）</td> </tr> <tr> <td>6. 疾病（1）</td> <td>14. 発表</td> </tr> <tr> <td>7. 疾病（2）</td> <td>15. 試験</td> </tr> <tr> <td>8. 身体のしくみ（1）</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b>          試験，レポート，出席率及び受講姿勢などから総合的に評価する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b></p> <p><b>【教科書】</b>          指定しない。必要に応じて資料を配布。</p> <p><b>【参考書等】</b></p> <p style="text-align: center;">※備考 次年度休講予定</p>						1. ガイダンス：授業計画や方法・目的などについて説明する。	9. 身体のしくみ（2）	2. 健康とは	10. 加齢と身体変化	3. 食事と栄養（1）	11. 絵画に隠された身体のなぞ	4. 食事と栄養（2）	12. 調査（1）	5. 体重と健康	13. 調査（2）	6. 疾病（1）	14. 発表	7. 疾病（2）	15. 試験	8. 身体のしくみ（1）	
1. ガイダンス：授業計画や方法・目的などについて説明する。	9. 身体のしくみ（2）																				
2. 健康とは	10. 加齢と身体変化																				
3. 食事と栄養（1）	11. 絵画に隠された身体のなぞ																				
4. 食事と栄養（2）	12. 調査（1）																				
5. 体重と健康	13. 調査（2）																				
6. 疾病（1）	14. 発表																				
7. 疾病（2）	15. 試験																				
8. 身体のしくみ（1）																					

教科 No.	2120	授業科目	音楽学 1	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	竹内有一			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b>          近世の古典芸能（日本伝統音楽）を視聴し理解することによって、京都と芸能がどのように関わってきたのかを検証します。歌舞伎や花街といった、かつての「悪所」の魅力と美学、そこで発達した三味線音楽の技と多様性を、AV資料の視聴や歴史資料を通じて学び、現代に生きる私たちの意識や感覚との繋がりを考えます。</p> <p><b>【授業概要】</b>          古典芸能の世界は、「縁」がないと触れる機会が少ないものです。しかし、歌舞伎や花街との関係で発達した三味線音楽は、近世社会においては誰もが、自由に弾いたり歌ったり、またプロによる超絶技巧に心躍らされたポピュラー音楽といえます。京都に由縁ある作品や事例を中心に紹介します。重要無形文化財に指定されている常磐津節（歌舞伎浄瑠璃）の伝承者としての講師の体験を生かした実習も交えます。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 歌舞伎における音楽の役割</td> <td style="width: 50%;">9. 錦絵と歌舞伎音楽 2</td> </tr> <tr> <td>2. 作品研究 歌舞伎「釣女」1</td> <td>10. 錦絵と歌舞伎音楽 3</td> </tr> <tr> <td>3. 作品研究 歌舞伎「釣女」2（南座にて鑑賞実習 ※）</td> <td>11. 京都画壇と音楽 1</td> </tr> <tr> <td>4. 浄瑠璃のワークショップ 常磐津節「釣女」1</td> <td>12. 京都画壇と音楽 2</td> </tr> <tr> <td>5. 浄瑠璃のワークショップ 常磐津節「釣女」2</td> <td>13. 京都の花街と音楽 1</td> </tr> <tr> <td>6. 浄瑠璃のワークショップ 常磐津節「釣女」3</td> <td>14. 京都の花街と音楽 2</td> </tr> <tr> <td>7. 小レポート発表</td> <td>15. 小テストとまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 錦絵と歌舞伎音楽 1</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b>          出席回数，ワークショップ等への意欲，小レポート，小テスト等を総合して評価します。</p> <p><b>【履修上の注意】</b></p> <p><b>【教科書】</b>          プリントを配布</p> <p><b>【参考書等】</b></p> <p style="text-align: center;">※備考 4月22～27日に開催される南座「歌舞伎鑑賞教室」（演目「釣女」）を探訪実習します。このほかにも、歌舞伎・文楽・能・狂言・邦楽など、学外でナマの古典芸能に触れる機会を作りましょう。それらの体験にもとづいて、小レポートを作成してもらいます。</p>						1. 歌舞伎における音楽の役割	9. 錦絵と歌舞伎音楽 2	2. 作品研究 歌舞伎「釣女」1	10. 錦絵と歌舞伎音楽 3	3. 作品研究 歌舞伎「釣女」2（南座にて鑑賞実習 ※）	11. 京都画壇と音楽 1	4. 浄瑠璃のワークショップ 常磐津節「釣女」1	12. 京都画壇と音楽 2	5. 浄瑠璃のワークショップ 常磐津節「釣女」2	13. 京都の花街と音楽 1	6. 浄瑠璃のワークショップ 常磐津節「釣女」3	14. 京都の花街と音楽 2	7. 小レポート発表	15. 小テストとまとめ	8. 錦絵と歌舞伎音楽 1	
1. 歌舞伎における音楽の役割	9. 錦絵と歌舞伎音楽 2																				
2. 作品研究 歌舞伎「釣女」1	10. 錦絵と歌舞伎音楽 3																				
3. 作品研究 歌舞伎「釣女」2（南座にて鑑賞実習 ※）	11. 京都画壇と音楽 1																				
4. 浄瑠璃のワークショップ 常磐津節「釣女」1	12. 京都画壇と音楽 2																				
5. 浄瑠璃のワークショップ 常磐津節「釣女」2	13. 京都の花街と音楽 1																				
6. 浄瑠璃のワークショップ 常磐津節「釣女」3	14. 京都の花街と音楽 2																				
7. 小レポート発表	15. 小テストとまとめ																				
8. 錦絵と歌舞伎音楽 1																					

教科 No.	2121	授業科目	音楽学 2	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	後藤静夫			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
【授業目標】																					
<p>義太夫節の戯曲的・音楽的構造、太夫・三味線・人形遣いの演奏・演技を学ぶことにより、近世の庶民の倫理観・美意識等に影響を与えた、特異な芸能・人形浄瑠璃文楽を総合的に理解する。鑑賞のポイントも学ぶ。</p>																					
【授業概要】																					
<p>わが国の芸能史を概観し、そこに共通する思想・概念を把握する。その上で、日本伝統音楽の主要な流れである語り物の代表・義太夫節の、高度な文学性、戯曲的・音楽的な構造・特性、太夫・三味線の演奏実態、人形の三人遣いのあり方・習得法等を、視聴覚資料（ビデオディスク・ビデオテープ・CD・オーディオテープ等）も用いて講義し、併せて演者の芸の鑑賞・判定のポイント等も解説予定。</p>																					
【授業内容】																					
<table border="0"> <tr> <td>1. 総論—日本芸能史概観 I</td> <td>9. 人形 I さまざまな人形</td> </tr> <tr> <td>2. 総論—日本芸能史概観 II</td> <td>10. 人形 II カラクリ人形と舞台人形</td> </tr> <tr> <td>3. 伝統芸能における人形浄瑠璃の意味</td> <td>11. 人形 III 三人遣い</td> </tr> <tr> <td>4. 人形浄瑠璃の史的、芸能的展開</td> <td>12. 舞台を支えるもの I</td> </tr> <tr> <td>5. 浄瑠璃と義太夫節</td> <td>13. 舞台を支えるもの II</td> </tr> <tr> <td>6. 義太夫節 I 芸論、当流浄瑠璃の創始</td> <td>14. 人形浄瑠璃は、何を、どう表現するのか</td> </tr> <tr> <td>7. 義太夫節 II 文学的・音楽的構造</td> <td>15. 人形浄瑠璃享受の実態は？</td> </tr> <tr> <td>8. 義太夫節 III 太夫・三味線</td> <td></td> </tr> </table>						1. 総論—日本芸能史概観 I	9. 人形 I さまざまな人形	2. 総論—日本芸能史概観 II	10. 人形 II カラクリ人形と舞台人形	3. 伝統芸能における人形浄瑠璃の意味	11. 人形 III 三人遣い	4. 人形浄瑠璃の史的、芸能的展開	12. 舞台を支えるもの I	5. 浄瑠璃と義太夫節	13. 舞台を支えるもの II	6. 義太夫節 I 芸論、当流浄瑠璃の創始	14. 人形浄瑠璃は、何を、どう表現するのか	7. 義太夫節 II 文学的・音楽的構造	15. 人形浄瑠璃享受の実態は？	8. 義太夫節 III 太夫・三味線	
1. 総論—日本芸能史概観 I	9. 人形 I さまざまな人形																				
2. 総論—日本芸能史概観 II	10. 人形 II カラクリ人形と舞台人形																				
3. 伝統芸能における人形浄瑠璃の意味	11. 人形 III 三人遣い																				
4. 人形浄瑠璃の史的、芸能的展開	12. 舞台を支えるもの I																				
5. 浄瑠璃と義太夫節	13. 舞台を支えるもの II																				
6. 義太夫節 I 芸論、当流浄瑠璃の創始	14. 人形浄瑠璃は、何を、どう表現するのか																				
7. 義太夫節 II 文学的・音楽的構造	15. 人形浄瑠璃享受の実態は？																				
8. 義太夫節 III 太夫・三味線																					
【評価方法】																					
学期末に課すレポート、並びに授業時に数回感想、意見を提出																					
【履修上の注意】																					
可能な機会があれば文楽公演または素浄瑠璃の演奏を鑑賞する																					
【教科書】																					
【参考書等】																					
* 「国文学」平成20年10月臨時増刊号 “文楽—人形浄瑠璃への招待” * 「日本の伝統芸能講座—舞踊・演劇」（国立劇場・2009）* 「日本の伝統芸能講座—音楽」（国立劇場・2008）																					

教科 No.	2122	授業科目	コミュニケーション論	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	○植條左洋子			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
【授業目標】																					
<p>「コミュニケーション」という言葉は最も多義的に使用されている術語のひとつであるが、様々なメディアが社会の中でどのような役割りを果たしているのかを理解する。</p>																					
【授業概要】																					
<p>本講座では、今日の情報社会において重要なポジションを占める映像メディアに焦点を当て、その成立過程を歴史的に分析するとともに、映像コミュニケーションの変化や特質を、主として芸術的側面から考察する。</p>																					
【授業内容】																					
<table border="0"> <tr> <td>1. 序章：コミュニケーションとは？</td> <td>9. 第四章：マーシャル・マクルーハンによるメディア論</td> </tr> <tr> <td>2. 第一章：メディアリテラシー</td> <td>10. 第五章：フォトジャーナリズムの誕生①ライフ誌の役割</td> </tr> <tr> <td>3. 第二章：コミュニケーションの発達史 ①メディア前史</td> <td>11. ②戦場をゆくカメラマン</td> </tr> <tr> <td>4. ②マスメディアの起源</td> <td>12. ③マグナム集団</td> </tr> <tr> <td>5. ③写真の誕生</td> <td>13. ④ロバート・キャパ</td> </tr> <tr> <td>6. ④映画の誕生</td> <td>14. ⑤アンリ・カルティエ・ブレッソン</td> </tr> <tr> <td>7. 第三章：映画の発達とモンタージュ ①エイジェンシュタイン他</td> <td>15. 第六章：21世紀における映像メディアとコミュニケーション</td> </tr> <tr> <td>8. ②モンタージュ表現法</td> <td></td> </tr> </table>						1. 序章：コミュニケーションとは？	9. 第四章：マーシャル・マクルーハンによるメディア論	2. 第一章：メディアリテラシー	10. 第五章：フォトジャーナリズムの誕生①ライフ誌の役割	3. 第二章：コミュニケーションの発達史 ①メディア前史	11. ②戦場をゆくカメラマン	4. ②マスメディアの起源	12. ③マグナム集団	5. ③写真の誕生	13. ④ロバート・キャパ	6. ④映画の誕生	14. ⑤アンリ・カルティエ・ブレッソン	7. 第三章：映画の発達とモンタージュ ①エイジェンシュタイン他	15. 第六章：21世紀における映像メディアとコミュニケーション	8. ②モンタージュ表現法	
1. 序章：コミュニケーションとは？	9. 第四章：マーシャル・マクルーハンによるメディア論																				
2. 第一章：メディアリテラシー	10. 第五章：フォトジャーナリズムの誕生①ライフ誌の役割																				
3. 第二章：コミュニケーションの発達史 ①メディア前史	11. ②戦場をゆくカメラマン																				
4. ②マスメディアの起源	12. ③マグナム集団																				
5. ③写真の誕生	13. ④ロバート・キャパ																				
6. ④映画の誕生	14. ⑤アンリ・カルティエ・ブレッソン																				
7. 第三章：映画の発達とモンタージュ ①エイジェンシュタイン他	15. 第六章：21世紀における映像メディアとコミュニケーション																				
8. ②モンタージュ表現法																					
【評価方法】																					
前期末試験に、授業中の課題等と出席を加味して評価する。																					
【履修上の注意】																					
【教科書】																					
なし。適時プリント等を配布。																					
【参考書等】																					
授業中に指示します。																					

教科 No.	2123	授業科目	都市計画論		単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	○疋田訓之				開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																		
<p><b>【授業目標】</b> 近代以降の都市計画の歴史から、計画者の意図と手法を学ぶことを通して、現代の都市をどのように読み解くことができるのか、また、その記述および表現の可能性を探る。</p> <p><b>【授業概要】</b> 都市とはなにか、その歴史的発展の中で孕む問題とは、その解決とは、そうした経緯の中で都市の表現はいかになされたのか。古代から近世までの都市構造を考察する。また、都市が時間とともに改変される事例を挙げて、時系列における考察および、その改変の計画者の意図や手法の考察も合わせておこなう。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 都市とは、都市の起源</td> <td>9. コーリン・ロウ</td> </tr> <tr> <td>2. オスマンによるパリ</td> <td>10. アルド・ロッシ</td> </tr> <tr> <td>3. ハワードの田園都市構想</td> <td>11. 時系列的考察 パリ</td> </tr> <tr> <td>4. トニー・ガルニエ</td> <td>12. 時系列的考察 ニューヨーク</td> </tr> <tr> <td>5. ル・コルビュジェ</td> <td>13. 現代の都市計画</td> </tr> <tr> <td>6. ケヴィン・リンチ</td> <td>14. 現代の都市計画</td> </tr> <tr> <td>7. ロバート・ヴェンチュリ</td> <td>15. 課題発表, 講評会</td> </tr> <tr> <td>8. アレグサンダー</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 授業参加姿勢, 討議内容, レポート課題等の提出物もあわせて評価する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 授業中に提示する参考書をできるだけ多く読むこと。海外の建築雑誌などに常日頃から親しみ、そこに表現された都市、その表現の方法や考え方を学びとること。</p> <p><b>【参考書等】</b> 講義の進行に応じて適宜紹介予定</p> <p>※備考 次年度休講予定</p>							1. 都市とは、都市の起源	9. コーリン・ロウ	2. オスマンによるパリ	10. アルド・ロッシ	3. ハワードの田園都市構想	11. 時系列的考察 パリ	4. トニー・ガルニエ	12. 時系列的考察 ニューヨーク	5. ル・コルビュジェ	13. 現代の都市計画	6. ケヴィン・リンチ	14. 現代の都市計画	7. ロバート・ヴェンチュリ	15. 課題発表, 講評会	8. アレグサンダー	
1. 都市とは、都市の起源	9. コーリン・ロウ																					
2. オスマンによるパリ	10. アルド・ロッシ																					
3. ハワードの田園都市構想	11. 時系列的考察 パリ																					
4. トニー・ガルニエ	12. 時系列的考察 ニューヨーク																					
5. ル・コルビュジェ	13. 現代の都市計画																					
6. ケヴィン・リンチ	14. 現代の都市計画																					
7. ロバート・ヴェンチュリ	15. 課題発表, 講評会																					
8. アレグサンダー																						

教科 No.	2124	授業科目	環境設計論		単位数	週1コマ 2単位
担当教員	池上俊郎				開講学期	前期
履修条件	美術学部在学学生		履修学年・専攻等	1年次以上		
<h1>今年度休講</h1>						

教科 No.	2125	授業科目	映像論 1	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	○伊奈新祐			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	3年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 映像芸術の歴史の変遷の概略について習得する。特にアヴァンギャルド・シネマから実験映画・ビデオアートへといった現在の「メディアアートとしての映像作品」のあり方についての歴史的認識を深める。</p> <p><b>【授業概要】</b> 映画、テレビ、ビデオそしてコンピュータへという映像メディアの発展の歴史に沿いながら、毎回、テーマに関連する映像資料・映像作品を鑑賞しながらその映像表現の特徴などについて解説していく。特にアヴァンギャルド・シネマから実験映画・ビデオアート、そしてメディアアートへと展開する「実験映像作品」に着目する。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. アメリカ実験映画 (1)</td> </tr> <tr> <td>2. 映画前史</td> <td>10. アメリカ実験映画 (2)</td> </tr> <tr> <td>3. 映画の黎明期</td> <td>11. TVの始まりとビデオアートの始まり</td> </tr> <tr> <td>4. ヨーロッパ前衛映画 (1) (ドイツ/フランス)</td> <td>12. ビデオアート (2)</td> </tr> <tr> <td>5. ヨーロッパ前衛映画 (2) (ダダからシュルレアリスムへ)</td> <td>13. 実験アニメーション/アート・アニメーション</td> </tr> <tr> <td>6. ヨーロッパ前衛映画 (3) (都市映画/ロシア)</td> <td>14. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. ヨーロッパ前衛映画 (4) (ロシア/表現主義映画)</td> <td>15. 試験</td> </tr> <tr> <td>8. 抽象映画の流れ</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 出席 (20%), 筆記試験 (ノート持ち込み可) (80%)</p> <p><b>【履修上の注意】</b></p> <p><b>【教科書】</b> 使用しない。</p> <p><b>【参考書等】</b> 『メディアアートの世界：実験映像 1967-2007』(国書刊行会, 伊奈新祐=編, 2008), 『実験映像の歴史』(A.L.Rees 著, 犬伏・伊奈他共訳, 晃洋書房, 2010), その他授業の中で適宜紹介する。</p>						1. ガイダンス	9. アメリカ実験映画 (1)	2. 映画前史	10. アメリカ実験映画 (2)	3. 映画の黎明期	11. TVの始まりとビデオアートの始まり	4. ヨーロッパ前衛映画 (1) (ドイツ/フランス)	12. ビデオアート (2)	5. ヨーロッパ前衛映画 (2) (ダダからシュルレアリスムへ)	13. 実験アニメーション/アート・アニメーション	6. ヨーロッパ前衛映画 (3) (都市映画/ロシア)	14. まとめ	7. ヨーロッパ前衛映画 (4) (ロシア/表現主義映画)	15. 試験	8. 抽象映画の流れ	
1. ガイダンス	9. アメリカ実験映画 (1)																				
2. 映画前史	10. アメリカ実験映画 (2)																				
3. 映画の黎明期	11. TVの始まりとビデオアートの始まり																				
4. ヨーロッパ前衛映画 (1) (ドイツ/フランス)	12. ビデオアート (2)																				
5. ヨーロッパ前衛映画 (2) (ダダからシュルレアリスムへ)	13. 実験アニメーション/アート・アニメーション																				
6. ヨーロッパ前衛映画 (3) (都市映画/ロシア)	14. まとめ																				
7. ヨーロッパ前衛映画 (4) (ロシア/表現主義映画)	15. 試験																				
8. 抽象映画の流れ																					

教科 No.	2126	授業科目	映像論 2	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	○伊奈新祐			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	3年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 「デジタル時代の映像表現」のあり方について考察する。 デジタル化・コンピュータ化が映像表現にどのような創造的な可能性をもたらしてきたかを認識する。</p> <p><b>【授業概要】</b> 前衛映画や実験映像作品を中心に映像メディアによる芸術表現の歴史の変遷を見てきた前期の「映像論 1」の受講を前提に授業は展開する。 デジタル革命の影響下にある現代の「メディアアートとしての映像作品」を対象に、毎回、テーマに関連した作品鑑賞、映像資料を通じて解説する。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. ニューメディアの慣例への映画作家の反応 (2: マルチフレーム/マルチレイヤーの構造)</td> </tr> <tr> <td>2. 映像メディアと諸芸術の関係</td> <td>10. 動く絵画/絵画としてのデジタルシネマ</td> </tr> <tr> <td>3. スクリーンの系譜学について (スクリーン/観客/身体の関係)</td> <td>11. 新しい時間性 (ループ構造)</td> </tr> <tr> <td>4. デジタル技術 (コンピュータ化) の映画への影響 1 (従来の映画への影響)</td> <td>12. 空間のモニタージュ</td> </tr> <tr> <td>5. デジタル技術 (コンピュータ化) の映画への影響 2 (新しい映画の形式)</td> <td>13. 情報空間としての映画</td> </tr> <tr> <td>6. デジタル技術 (コンピュータ化) の映画への影響 3 (one-take-movie)</td> <td>14. コードとしての映画 (コード変換/メディア変換)</td> </tr> <tr> <td>7. 前衛映画からデジタルシネマへ</td> <td>15. 試験</td> </tr> <tr> <td>8. ニューメディアの慣例への映画作家の反応 (1: ゲームの物語の影響)</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 出席状況 (20%) と筆記試験 (自筆ノート持ち込み可) (80%) により評価する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 前期の「映像論 1」を履修しておくことが望ましい。</p> <p><b>【教科書】</b> 使用しない。</p> <p><b>【参考書等】</b> 『The Language of New Media』(by Lev Manovich, 2001: 邦訳「ニューメディアの言語」(堀+伊奈訳, みすず書房, 2011年出版予定)), 『メディアアートの世界：実験映像 1967-2007』(国書刊行会, 伊奈新祐=編), 『実験映像の歴史』(犬伏・伊奈他共訳, 晃洋書房, 2010), その他適宜授業内で紹介する。</p>						1. ガイダンス	9. ニューメディアの慣例への映画作家の反応 (2: マルチフレーム/マルチレイヤーの構造)	2. 映像メディアと諸芸術の関係	10. 動く絵画/絵画としてのデジタルシネマ	3. スクリーンの系譜学について (スクリーン/観客/身体の関係)	11. 新しい時間性 (ループ構造)	4. デジタル技術 (コンピュータ化) の映画への影響 1 (従来の映画への影響)	12. 空間のモニタージュ	5. デジタル技術 (コンピュータ化) の映画への影響 2 (新しい映画の形式)	13. 情報空間としての映画	6. デジタル技術 (コンピュータ化) の映画への影響 3 (one-take-movie)	14. コードとしての映画 (コード変換/メディア変換)	7. 前衛映画からデジタルシネマへ	15. 試験	8. ニューメディアの慣例への映画作家の反応 (1: ゲームの物語の影響)	
1. ガイダンス	9. ニューメディアの慣例への映画作家の反応 (2: マルチフレーム/マルチレイヤーの構造)																				
2. 映像メディアと諸芸術の関係	10. 動く絵画/絵画としてのデジタルシネマ																				
3. スクリーンの系譜学について (スクリーン/観客/身体の関係)	11. 新しい時間性 (ループ構造)																				
4. デジタル技術 (コンピュータ化) の映画への影響 1 (従来の映画への影響)	12. 空間のモニタージュ																				
5. デジタル技術 (コンピュータ化) の映画への影響 2 (新しい映画の形式)	13. 情報空間としての映画																				
6. デジタル技術 (コンピュータ化) の映画への影響 3 (one-take-movie)	14. コードとしての映画 (コード変換/メディア変換)																				
7. 前衛映画からデジタルシネマへ	15. 試験																				
8. ニューメディアの慣例への映画作家の反応 (1: ゲームの物語の影響)																					

教科 No.	2127	授業科目	造園学 1		単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	○中根史郎				開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																		
<p><b>【授業目標】</b> 海外でも高い評価を得ている日本庭園に関して、日本の芸術家として知っておくべき最低限の知識の修得を目指す。加えて、各自専攻の芸術を、造園の応用する方途についても考える。</p> <p><b>【授業概要】</b> 造園という造形芸術の特殊性は、純粋芸術とは異なる「用」と「美」の二元性と生きた材料（植物）を用いるところにある。そこでまず植物の特性について示し、次に日本の芸術家が知っておくべき日本庭園の歴史と思想要素、更には自然環境の影響についても考えた上で、日本式造園の世界における意味と今後について考察する。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 「造園の仕事とは何か」、を講師自身の作品で示しながら紹介する。</td> <td>9. 日本庭園の三種の神器。地域的影響。日本庭園の維持管理と庭園景観の変化。</td> </tr> <tr> <td>2. 造園という造形芸術の特殊性、「生きた材料（植物）」について概説する。</td> <td>10. 庭園景観の維持・管理の具体的な方法。</td> </tr> <tr> <td>3. (日本庭園の歴史と要素、造園の実態に関して、学生諸君の興味と関心に従い講義を進める。) 日本庭園と外国庭園、日本庭園文化の流れのイメージと日本庭園略史。</td> <td>11. 現代造園と伝統的石組技術。(古庭園から学ぶ。)</td> </tr> <tr> <td>4. 日本庭園略史。</td> <td>12. 現代造園の技法。(現代造園は数百年残りうる古庭園とはなり得ない。)</td> </tr> <tr> <td>5. 日本庭園略史。</td> <td>13. 伝統的技術を用いた自然復元の試み。</td> </tr> <tr> <td>6. 日本庭園略史。主要な日本庭園意匠の要素。</td> <td>14. 講師の作品例からこれからの造園を考える。</td> </tr> <tr> <td>7. 主要な日本庭園意匠の要素。</td> <td>15. 講師の作品例からこれからの造園を考える。</td> </tr> <tr> <td>8. 主要な日本庭園意匠の要素。</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 課題に従ってレポートの提出を求め、それによって評価するのを原則とするが、場合によっては出席率も勘案する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b></p> <p><b>【参考書等】</b> 学生諸君の希望があれば、必要に応じた図書を推薦する。</p> <p>※備考 学生諸君の興味の程度により毎回臨機応変に講義を進め、写真等の視覚的な媒体でより容易な理解を得さしめる様に努める。</p> <p>次年度休講予定</p>							1. 「造園の仕事とは何か」、を講師自身の作品で示しながら紹介する。	9. 日本庭園の三種の神器。地域的影響。日本庭園の維持管理と庭園景観の変化。	2. 造園という造形芸術の特殊性、「生きた材料（植物）」について概説する。	10. 庭園景観の維持・管理の具体的な方法。	3. (日本庭園の歴史と要素、造園の実態に関して、学生諸君の興味と関心に従い講義を進める。) 日本庭園と外国庭園、日本庭園文化の流れのイメージと日本庭園略史。	11. 現代造園と伝統的石組技術。(古庭園から学ぶ。)	4. 日本庭園略史。	12. 現代造園の技法。(現代造園は数百年残りうる古庭園とはなり得ない。)	5. 日本庭園略史。	13. 伝統的技術を用いた自然復元の試み。	6. 日本庭園略史。主要な日本庭園意匠の要素。	14. 講師の作品例からこれからの造園を考える。	7. 主要な日本庭園意匠の要素。	15. 講師の作品例からこれからの造園を考える。	8. 主要な日本庭園意匠の要素。	
1. 「造園の仕事とは何か」、を講師自身の作品で示しながら紹介する。	9. 日本庭園の三種の神器。地域的影響。日本庭園の維持管理と庭園景観の変化。																					
2. 造園という造形芸術の特殊性、「生きた材料（植物）」について概説する。	10. 庭園景観の維持・管理の具体的な方法。																					
3. (日本庭園の歴史と要素、造園の実態に関して、学生諸君の興味と関心に従い講義を進める。) 日本庭園と外国庭園、日本庭園文化の流れのイメージと日本庭園略史。	11. 現代造園と伝統的石組技術。(古庭園から学ぶ。)																					
4. 日本庭園略史。	12. 現代造園の技法。(現代造園は数百年残りうる古庭園とはなり得ない。)																					
5. 日本庭園略史。	13. 伝統的技術を用いた自然復元の試み。																					
6. 日本庭園略史。主要な日本庭園意匠の要素。	14. 講師の作品例からこれからの造園を考える。																					
7. 主要な日本庭園意匠の要素。	15. 講師の作品例からこれからの造園を考える。																					
8. 主要な日本庭園意匠の要素。																						

教科 No.	2128	授業科目	造園学 2		単位数	集中30時間 2単位
担当教員	○忽那裕樹				開講学期	後期
履修条件	風景をデザインの視点で理解したい人		履修学年・専攻等	1年次以上		
<h1>今年度休講</h1>						

教科 No.	2129	授業科目	日本文化論 1	単位数	集中30時間 2単位																
担当教員	○碓井みちこ			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b>  「日本」とは無条件に与えられた場所ではなく、伝統の継承や、批判的対決や、創造行為等において、不断に解体・生成・構築されるべき何かである。この意味での「日本」文化の多様な有りようを理論的に考察する。</p> <p><b>【授業概要】</b>  今日の日本において、アニメーションは私達のもの見方に深く働きかけているメディアである。アニメーションとは何か？それは映画と同じか、それとも違うのか？日本のアニメーションの特徴とは？海外のアニメーションとはどこか違うのか？以上の視点からアニメーションの歴史とその表現の特徴を多角的に検討する。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1.1日目：はじめに：アニメーションとは何か？映画とは何か？</td> <td>9.2日目：動きのアニメーションとリミテッドアニメーション（1）</td> </tr> <tr> <td>2.1日目：「写し絵」：アニメーションの源流</td> <td>10.2日目：動きのアニメーションとリミテッドアニメーション（2）</td> </tr> <tr> <td>3.1日目：作品鑑賞</td> <td>11.3日目：「フル・リミテッドアニメーション」とは？</td> </tr> <tr> <td>4.1日目：サイレント映画の時代のアニメーション</td> <td>12.3日目：作品鑑賞</td> </tr> <tr> <td>5.1日目：サイレントからトーキーへ</td> <td>13.3日目：スタジオジブリのアニメーション</td> </tr> <tr> <td>6.2日目：日本のアニメーションの特徴とは？</td> <td>14.3日目：現在の日本のアニメーション</td> </tr> <tr> <td>7.2日目：作品鑑賞</td> <td>15.3日目：まとめ</td> </tr> <tr> <td>8.2日目：東映動画と虫プロ</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b></p> <p><b>【履修上の注意】</b></p> <p><b>【教科書】</b>  使用しない。DVD、ビデオ、プリント、パワーポイントを使用する。</p> <p><b>【参考書等】</b>  加藤幹郎『アニメーションの映画学』、臨川書店、2009年。黒沢清・四方田犬彦・吉見俊哉・李鳳宇（編集委員）『日本映画は生きている第6巻 アニメは越境する』、岩波書店、2010年。高畑勲『「ホルス」の映像表現』、徳間書店アニメージュ文庫、1983年。津堅信之『日本アニメーションの力 85年の歴史を貫く2つの軸』、NTT出版、2004年。</p> <p>※備考 日本文化論1ではとくに映像表現の問題を中心とする。</p>						1.1日目：はじめに：アニメーションとは何か？映画とは何か？	9.2日目：動きのアニメーションとリミテッドアニメーション（1）	2.1日目：「写し絵」：アニメーションの源流	10.2日目：動きのアニメーションとリミテッドアニメーション（2）	3.1日目：作品鑑賞	11.3日目：「フル・リミテッドアニメーション」とは？	4.1日目：サイレント映画の時代のアニメーション	12.3日目：作品鑑賞	5.1日目：サイレントからトーキーへ	13.3日目：スタジオジブリのアニメーション	6.2日目：日本のアニメーションの特徴とは？	14.3日目：現在の日本のアニメーション	7.2日目：作品鑑賞	15.3日目：まとめ	8.2日目：東映動画と虫プロ	
1.1日目：はじめに：アニメーションとは何か？映画とは何か？	9.2日目：動きのアニメーションとリミテッドアニメーション（1）																				
2.1日目：「写し絵」：アニメーションの源流	10.2日目：動きのアニメーションとリミテッドアニメーション（2）																				
3.1日目：作品鑑賞	11.3日目：「フル・リミテッドアニメーション」とは？																				
4.1日目：サイレント映画の時代のアニメーション	12.3日目：作品鑑賞																				
5.1日目：サイレントからトーキーへ	13.3日目：スタジオジブリのアニメーション																				
6.2日目：日本のアニメーションの特徴とは？	14.3日目：現在の日本のアニメーション																				
7.2日目：作品鑑賞	15.3日目：まとめ																				
8.2日目：東映動画と虫プロ																					

教科 No.	2130	授業科目	日本文化論 2	単位数	集中30時間 2単位																
担当教員	○中路正恒			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b>  「日本」とは無前提に与えられた場所ではなく、伝統の継承や、批判的対決や、創造行為によって、不断に解体・生成・構築されるべき何かである。この意味での「日本」文化の多様な有りようを理論的に考察する。</p> <p><b>【授業概要】</b>  われわれはいつから「日本文化」単数名詞として考えるようになったのだろうか？この授業では外と繋がりつつ列島の多様な風土に応じて営まれてきた多様な生き方に目を向けて生活と文化を捉え直すとともに、遊動と定住、贈与と交換、輪廻と山の神、子と母性など、問題を普通的な概念から深く考察しなおすことを試みる。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 柳田国男の『雪国の春』とそこに捉えられている問題1 文化とは何か？</td> <td>9.『雪国の春』が視野の外に置いている問題4 自分文化の形成</td> </tr> <tr> <td>2. 柳田国男の『雪国の春』とそこに捉えられている問題2 日本文化とは何か？</td> <td>10.『雪国の春』が視野の外に置いている問題5 地域性のある生活の中のボエジーの発見</td> </tr> <tr> <td>3. 柳田国男の『雪国の春』とそこに捉えられている問題3 定住・ノマド・先住民</td> <td>11. 食と贈与 宮沢賢治の『なめとこ山の熊』1 様々な不整合（年齢、村住、他の罪のない仕事 etc.）</td> </tr> <tr> <td>4. 柳田国男の『雪国の春』とそこに捉えられている問題4 国民国家の形成への柳田の寄与</td> <td>12. 食と贈与 宮沢賢治の『なめとこ山の熊』2 山の神の影</td> </tr> <tr> <td>5. 柳田国男の『雪国の春』とそこに捉えられている問題5 和歌と地方地方の文芸発展の余地</td> <td>13. 食と贈与 宮沢賢治の『なめとこ山の熊』3 ショウゾク伝承の影（し残した仕事）</td> </tr> <tr> <td>6.『雪国の春』が視野の外に置いている問題1 縄文文化</td> <td>14. 食と贈与 宮沢賢治の『なめとこ山の熊』4 諏訪の勘文の影・天台本覚思想の影</td> </tr> <tr> <td>7.『雪国の春』が視野の外に置いている問題2 アイヌ文化</td> <td>15. 食と贈与 宮沢賢治の『なめとこ山の熊』5 秘密（熊ども許せよ）</td> </tr> <tr> <td>8.『雪国の春』が視野の外に置いている問題3 非稲作文化</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b>  三回の小レポートとレポート試験による。</p> <p><b>【履修上の注意】</b></p> <p><b>【参考書等】</b>  中路正恒『日本感性史叙説』 創言社 2,500円 <a href="http://25237720.at.webry.info/">http://25237720.at.webry.info/</a> <a href="http://www2.biglobe.ne.jp/~naxos/index.htm">http://www2.biglobe.ne.jp/~naxos/index.htm</a></p> <p>※備考 日本文化論2ではとくに民俗学・文学・宗教学上の諸テーマを中心とする。</p>						1. 柳田国男の『雪国の春』とそこに捉えられている問題1 文化とは何か？	9.『雪国の春』が視野の外に置いている問題4 自分文化の形成	2. 柳田国男の『雪国の春』とそこに捉えられている問題2 日本文化とは何か？	10.『雪国の春』が視野の外に置いている問題5 地域性のある生活の中のボエジーの発見	3. 柳田国男の『雪国の春』とそこに捉えられている問題3 定住・ノマド・先住民	11. 食と贈与 宮沢賢治の『なめとこ山の熊』1 様々な不整合（年齢、村住、他の罪のない仕事 etc.）	4. 柳田国男の『雪国の春』とそこに捉えられている問題4 国民国家の形成への柳田の寄与	12. 食と贈与 宮沢賢治の『なめとこ山の熊』2 山の神の影	5. 柳田国男の『雪国の春』とそこに捉えられている問題5 和歌と地方地方の文芸発展の余地	13. 食と贈与 宮沢賢治の『なめとこ山の熊』3 ショウゾク伝承の影（し残した仕事）	6.『雪国の春』が視野の外に置いている問題1 縄文文化	14. 食と贈与 宮沢賢治の『なめとこ山の熊』4 諏訪の勘文の影・天台本覚思想の影	7.『雪国の春』が視野の外に置いている問題2 アイヌ文化	15. 食と贈与 宮沢賢治の『なめとこ山の熊』5 秘密（熊ども許せよ）	8.『雪国の春』が視野の外に置いている問題3 非稲作文化	
1. 柳田国男の『雪国の春』とそこに捉えられている問題1 文化とは何か？	9.『雪国の春』が視野の外に置いている問題4 自分文化の形成																				
2. 柳田国男の『雪国の春』とそこに捉えられている問題2 日本文化とは何か？	10.『雪国の春』が視野の外に置いている問題5 地域性のある生活の中のボエジーの発見																				
3. 柳田国男の『雪国の春』とそこに捉えられている問題3 定住・ノマド・先住民	11. 食と贈与 宮沢賢治の『なめとこ山の熊』1 様々な不整合（年齢、村住、他の罪のない仕事 etc.）																				
4. 柳田国男の『雪国の春』とそこに捉えられている問題4 国民国家の形成への柳田の寄与	12. 食と贈与 宮沢賢治の『なめとこ山の熊』2 山の神の影																				
5. 柳田国男の『雪国の春』とそこに捉えられている問題5 和歌と地方地方の文芸発展の余地	13. 食と贈与 宮沢賢治の『なめとこ山の熊』3 ショウゾク伝承の影（し残した仕事）																				
6.『雪国の春』が視野の外に置いている問題1 縄文文化	14. 食と贈与 宮沢賢治の『なめとこ山の熊』4 諏訪の勘文の影・天台本覚思想の影																				
7.『雪国の春』が視野の外に置いている問題2 アイヌ文化	15. 食と贈与 宮沢賢治の『なめとこ山の熊』5 秘密（熊ども許せよ）																				
8.『雪国の春』が視野の外に置いている問題3 非稲作文化																					

教科 No.	2131	授業科目	現代メディア論 1	単位数	週1コマ 2単位
担当教員	○松尾恵			開講学期	前期
履修条件			履修学年・専攻等	1 年次以上	
【授業目標】 昨今の美術領域における用語<メディア>について、学生それぞれの制作・研究分野との関係の認識を深めることを目標とします。					
【授業概要】 美術活動における多様なメディアの活用事例および1990年代以降のメディアアートを紹介。制作・研究における実践へと繋がるようメディア活用の文化・経済側面も考察します。					
【授業内容】					
1. 講義概要 (ガイダンス)			9. 美術活動が社会活動として成立する過程でのメディアの役割		
2. 美術領域における用語<メディア>について			10. 美術活動の広報活動におけるメディア活用例		
3. メディアアートについて			11. 作品・研究発表の記録におけるメディア活用例		
4. メディアアート事例 (1) /メディアインスタレーション			12. 記録と表現/メディアと芸術家/コミュニティ		
5. メディアアート事例 (2) /領域横断的な作品			13. 記録と表現/地域コミュニティを舞台とするプロジェクト		
6. 美術活動におけるメディア活用事例_その1 (作り手=芸術家)			14. 記録と表現/メディア活用の多様性, 可能性, 課題/オーラル・アート・ヒストリー		
7. 美術活動におけるメディア活用事例_その2 (受け手=鑑賞者)			15. 総括・レポート課題発表と課題についての質疑応答		
8. 美術活動におけるメディア活用事例_その3 (送り手=美術のさまざまな専門家)					
【評価方法】 学生それぞれの研究や活動の現状とメディアとの関わりをレポートそして提出していただきます。					
【履修上の注意】 メディアアートの映像資料には、視覚・聴覚を強く刺激する作品がありますので、視聴中の体調不良は速やかに申し出てください。また、日々更新される新作の紹介に努めますので、授業内容の順番を変更する場合があります。					
【参考書等】					
※備考 昨今の美術領域におけるメディアについて、学生それぞれの制作・研究分野との関係の認識を深めることを目標とします。					

教科 No.	2132	授業科目	現代メディア論 2	単位数	週1コマ 2単位
担当教員	○吉岡洋			開講学期	後期
履修条件	現代メディア社会に大いなる不信感と懐疑を抱く学生を歓迎する。		履修学年・専攻等	1 年次以上	
【授業目標】 この授業の目標は何らかの知識の習得、つまり学習ではない。なぜなら「メディア」とは知識そのものではなく、むしろ知識の乗り物(ヴィークル)、知識が伝達される文脈や方法にかかわる問題だからである(その意味でこのシラバスもひとつの「メディア」だ)。では、この授業は何を目指すのか? それは疑うこと。「メディア」という、このもっとも自明にみえるものをこそ疑うことである。こうしたラディカルな懐疑精神なくして、私たちに未来はないのだ。					
【授業概要】 何かに先立ってその「概要」を示すことほど知性や思考から遠いものはないのだが、現代では何に対しても「概要」を示し、その意義と効果を説明し、評価を受けることが要求されている。こうした傾向もメディア社会の一面面にほかならない。人はメディアが何を明らかにし、メディアによって何が出来るかを語りたがる。この授業ではむしろ、メディアが何を隠蔽し、どのように人間を束縛しているかを考える。それを通じて、メディア化された世界における真の自由を探究したい。					
【授業内容】					
1. カンベンション、「メディア」について考えるための準備運動。メディア・マスメディア・ニューメディア・マルチメディアなど、混同した概念を整理する。そして「メディアの哲学」は可能かを考える。			9. メディアと速度。フランスの思想家ポール・ヴィリリオを読みながら、「速度」と文明。そして光速級のテクノロジーが支配する現代文明の根本問題について考える。		
2. メディアと感覚。マッシュル・マクルーハンの思想について、もう一度考えてみる。メディア論における「人間中心主義」そして「ポスト人間主義」について考察する。			10. メディアとタナトス。フロイドは命と生産を求めた衝動(エロス)と並んで、死と破壊へ向かう衝動(タナトス)を考え、メディアによって、エロスと共にタナトスが増幅される。		
3. デジタルメディアの形而上学。デジタル・テクノロジーは、人間を無意識のうちに行動のバスターへと誘導する。その機軸を具体的に分析し、メディアが現代人の宗教に代わらないことを議論する。			11. メディアと芸術。20世紀の芸術はテクノロジーとの関係を無視しては語ることができない。またメディアを積極的に芸術制作に取り入れるメディアアートも存在する。その思想背景について考える。		
4. メディアと思想者。メディアにおける「聖なるもの」。メディアは合理的技術の産物でありながら、その中心に逆行もいない非合理的なものを抱えている。メディアの「神」とは何かを考える。			12. ネットワークの哲学。「インターネット」はネットワーク時代の最終形態ではない。むしろほんの始まりの、さまざまな初期形態にすぎない。ネットワークの発展的可能性について、哲学的に考察する。		
5. メディア・セックス。メディアは演劇(リビドー)の流れを操作する。なぜメディアはポルノグラフィであるのか。なぜメディアは人間の無意識的な性を加速させるのか。			13. 反メディアの反動性。メディアに別して「アンチ」の態度をとることが、いかにメディアに従属し、無力であるかを証明する。メディアからの脱却はメディアを通してしか無いのだ。		
6. コンピュータの系譜学。現代のメディアを基礎づけているコンピュータ科学・計算理論・アルゴリズムといった知識の文明史的起源は何かを考える。			14. メディアと自由の可能性。ヴィレム・フルムラーを読みながら、メディア社会の未来における人間の自由の在り方について考える。自由の未来的な再定義を試みる。		
7. メディア考古学。アメリカのメディア学者エルキ・フーターは、メディアと人間の関わりをデジタルメディア時代を何世紀も遡る歴史の中に求める興味深い研究を続けている。			15. この授業の総括と補足。メディアというテーマをめぐる様々な疑問・質問に答える。		
8. 戦争とメディア。「戦争」こそ、人間を他の動物から区別する現象である。メディア技術も戦争によって劇的に進歩した。理性は戦争に敵対する。そのことを考えなければ、平和に至る道はない。					
【評価方法】 出席は評価せず、また定期試験も実施しない。授業期間中に数回、小レポートを提出しそれによって評価を行なう予定である。					
【履修上の注意】 特になし					
【教科書】 特になし					
【参考書等】 講義中に適宜指示または配布する。					
※備考 上の授業計画 1～15 は現段階における暫定的なテーマであり、また順序は不同である。議論の進展や学生からの反応に応じて、予測不能の発展や逸脱が考えられる。					

教科 No.	2133	授業科目	造形計画 1-A	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	井上明彦			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 造形計画 1 は、20 世紀の美術およびデザインから、いくつかの重要な芸術表現上のテーマや方法論を抽出し、その演奏（再解釈と創造的読解）を通して、新たな表現の可能性を探る実験的な研究・制作を行う。</p> <p><b>【授業概要】</b> 【カタログ】世界を織りなす多種多様な事象を、分類と配列という類型学的方法によって関係づけ、新たな知覚のあり方を生み出す手法は、古今東西の芸術や科学にさまざまに見られる。この授業では、この方法の「演奏」を通じて、自己と世界を新たに見つめ直し、その成果を「カタログ」としてかたちにすることを試みる。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション：「カタログ」と「類型学 typology」</td> <td>9. 中間報告とディスカッション (1)</td> </tr> <tr> <td>2. カタログの多様性と本質</td> <td>10. 中間報告とディスカッション (2)</td> </tr> <tr> <td>3. 表現としてのタイポロジー演習 (1) 分類と配列</td> <td>11. 中間報告とディスカッション (3)</td> </tr> <tr> <td>4. 表現としてのタイポロジー演習 (2) 分類と配列</td> <td>12. プレゼンテーション (1)</td> </tr> <tr> <td>5. カタログ/タイポロジー的表現 (1)</td> <td>13. プレゼンテーション (2)</td> </tr> <tr> <td>6. カタログ/タイポロジー的表現 (2)</td> <td>14. プレゼンテーション (3)</td> </tr> <tr> <td>7. カタログ/タイポロジー的表現 (3)</td> <td>15. 総括</td> </tr> <tr> <td>8. カタログ/タイポロジー的表現 (4)</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 出席状況、課題への取り組み、ディスカッションへの参加度、最終成果物、レポート等によって総合的に評価する。試験やレポートのみの評価は行わない。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 講義だけでなく、演習や制作実習を含む実践的授業である。旺盛な好奇心と創作意欲が必要。</p> <p><b>【教科書】</b> なし。原則として毎回プリントを配布する。</p> <p><b>【参考書等】</b></p> <p>※備考 進行状況に応じて授業計画は変更される場合がある。全体として成果があれば、展覧会のかたちで発表することもありえる。</p>						1. イントロダクション：「カタログ」と「類型学 typology」	9. 中間報告とディスカッション (1)	2. カタログの多様性と本質	10. 中間報告とディスカッション (2)	3. 表現としてのタイポロジー演習 (1) 分類と配列	11. 中間報告とディスカッション (3)	4. 表現としてのタイポロジー演習 (2) 分類と配列	12. プレゼンテーション (1)	5. カタログ/タイポロジー的表現 (1)	13. プレゼンテーション (2)	6. カタログ/タイポロジー的表現 (2)	14. プレゼンテーション (3)	7. カタログ/タイポロジー的表現 (3)	15. 総括	8. カタログ/タイポロジー的表現 (4)	
1. イントロダクション：「カタログ」と「類型学 typology」	9. 中間報告とディスカッション (1)																				
2. カタログの多様性と本質	10. 中間報告とディスカッション (2)																				
3. 表現としてのタイポロジー演習 (1) 分類と配列	11. 中間報告とディスカッション (3)																				
4. 表現としてのタイポロジー演習 (2) 分類と配列	12. プレゼンテーション (1)																				
5. カタログ/タイポロジー的表現 (1)	13. プレゼンテーション (2)																				
6. カタログ/タイポロジー的表現 (2)	14. プレゼンテーション (3)																				
7. カタログ/タイポロジー的表現 (3)	15. 総括																				
8. カタログ/タイポロジー的表現 (4)																					

教科 No.	2134	授業科目	造形計画 1-B	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	井上明彦			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 造形計画 1 は、20 世紀の美術およびデザインから、いくつかの重要な芸術表現上のテーマや方法論を抽出し、その演奏（再解釈と創造的読解）を通して、新たな表現の可能性を探る実験的な研究・制作を行う。</p> <p><b>【授業概要】</b> 【記録と表現】時間の中で変化消滅していく存在や現象を記録することは、古来より視覚芸術の重要な役割であったが、内面の表現を重視するロマン主義的な芸術観は、記録を二次的な位置に押しやった。この授業では、コンセプチュアル・アート以降、芸術において再び重要な位置を占めるようになった記録という方法をさまざまに演奏し、その可能性を探る。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション：記録と表現</td> <td>9. 演習：recording (1)</td> </tr> <tr> <td>2. 見たままスコープ</td> <td>10. 発表とディスカッション (1)</td> </tr> <tr> <td>3. 暗い部屋/明るい部屋</td> <td>11. 演習：recording (2)</td> </tr> <tr> <td>4. 視覚的無意識/another record</td> <td>12. 発表とディスカッション (2)</td> </tr> <tr> <td>5. 現代美術における記録/表現 (1)</td> <td>13. 演習：recording (3)</td> </tr> <tr> <td>6. 現代美術における記録/表現 (2)</td> <td>14. 発表とディスカッション (3)</td> </tr> <tr> <td>7. 現代美術における記録/表現 (3)</td> <td>15. 総括</td> </tr> <tr> <td>8. 視覚的無意識/another record</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 出席状況、課題への取り組み、ディスカッションへの参加度、最終成果物、レポート等によって総合的に評価する。試験やレポートのみの評価は行わない。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 講義だけでなく、演習や制作実習を含む実践的授業である。旺盛な好奇心と創作意欲が必要。</p> <p><b>【教科書】</b> なし。原則として毎回プリントを配布する。</p> <p><b>【参考書等】</b></p> <p>※備考 進行状況に応じて授業計画は変更される場合がある。全体として成果があれば、展覧会のかたちで発表することもありえる。</p>						1. イントロダクション：記録と表現	9. 演習：recording (1)	2. 見たままスコープ	10. 発表とディスカッション (1)	3. 暗い部屋/明るい部屋	11. 演習：recording (2)	4. 視覚的無意識/another record	12. 発表とディスカッション (2)	5. 現代美術における記録/表現 (1)	13. 演習：recording (3)	6. 現代美術における記録/表現 (2)	14. 発表とディスカッション (3)	7. 現代美術における記録/表現 (3)	15. 総括	8. 視覚的無意識/another record	
1. イントロダクション：記録と表現	9. 演習：recording (1)																				
2. 見たままスコープ	10. 発表とディスカッション (1)																				
3. 暗い部屋/明るい部屋	11. 演習：recording (2)																				
4. 視覚的無意識/another record	12. 発表とディスカッション (2)																				
5. 現代美術における記録/表現 (1)	13. 演習：recording (3)																				
6. 現代美術における記録/表現 (2)	14. 発表とディスカッション (3)																				
7. 現代美術における記録/表現 (3)	15. 総括																				
8. 視覚的無意識/another record																					

教科 No.	2135	授業科目	造形計画 2-A	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	井上明彦			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1 年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 造形計画 2 は、美術/デザイン/工芸など既存の芸術区分の手前で、日常の経験や環境から新たな認識と表現の可能性をひき出す方法を探り、自らの制作研究にフィードバックしつつ、芸術と日常、芸術と社会の新たな接続をはかることを目標とする。</p> <p><b>【授業概要】</b> 【ロケーション】目に見える風景には目に見えないさまざまな位相がある。現在、京都第二外環状道路建設計画により、本学周辺の風景が大きく変貌しつつある。本授業では、本学とそれを取り巻く地域のさまざまなフィールドワークを通じて、日常の風景や場所の多元性をとらえ直し、その表現方法を開拓することを試みる。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション～「道」とは何か?</td> <td>9. 演習：大枝旅行</td> </tr> <tr> <td>2. 「地/図」をつくる</td> <td>10. プレゼンテーション：大枝みやげ</td> </tr> <tr> <td>3. フィールドワーク：風景の見えない次元</td> <td>11. 歩行ガイドをつくる (1)</td> </tr> <tr> <td>4. 100 mの線：実験と制作</td> <td>12. 歩行ガイドをつくる (2)</td> </tr> <tr> <td>5. 100 mの線：プレゼンテーションとディスカッション</td> <td>13. ガイドツアー (1)</td> </tr> <tr> <td>6. 100 m四方の正方形：実験と制作</td> <td>14. ガイドツアー (2)</td> </tr> <tr> <td>7. 100 m四方の正方形：プレゼンテーションとディスカッション</td> <td>15. 総括とディスカッション</td> </tr> <tr> <td>8. もうひとつの「歩き方」</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 授業への参加度、課題への取り組み、作品とレポート等によって総合的に評価する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 講義だけではなく、演習や制作実習を含む実践的授業である。旺盛な好奇心と創作意欲が必要。</p> <p><b>【教科書】</b> なし。原則として毎回プリントを配布する。</p> <p><b>【参考書等】</b> 大枝アートプロジェクト HP (<a href="http://w3.kcua.ac.jp/~oap/">http://w3.kcua.ac.jp/~oap/</a>)、エドワード・レルフ『場所の現象学』、村井康彦編『京都・大枝の歴史と文化』</p> <p>※備考 進行に応じて授業計画は変更されうる。全体として成果があれば、展覧会等のかたちで発表することもありえる。</p>						1. イントロダクション～「道」とは何か?	9. 演習：大枝旅行	2. 「地/図」をつくる	10. プレゼンテーション：大枝みやげ	3. フィールドワーク：風景の見えない次元	11. 歩行ガイドをつくる (1)	4. 100 mの線：実験と制作	12. 歩行ガイドをつくる (2)	5. 100 mの線：プレゼンテーションとディスカッション	13. ガイドツアー (1)	6. 100 m四方の正方形：実験と制作	14. ガイドツアー (2)	7. 100 m四方の正方形：プレゼンテーションとディスカッション	15. 総括とディスカッション	8. もうひとつの「歩き方」	
1. イントロダクション～「道」とは何か?	9. 演習：大枝旅行																				
2. 「地/図」をつくる	10. プレゼンテーション：大枝みやげ																				
3. フィールドワーク：風景の見えない次元	11. 歩行ガイドをつくる (1)																				
4. 100 mの線：実験と制作	12. 歩行ガイドをつくる (2)																				
5. 100 mの線：プレゼンテーションとディスカッション	13. ガイドツアー (1)																				
6. 100 m四方の正方形：実験と制作	14. ガイドツアー (2)																				
7. 100 m四方の正方形：プレゼンテーションとディスカッション	15. 総括とディスカッション																				
8. もうひとつの「歩き方」																					

教科 No.	2136	授業科目	造形計画 2-B	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	井上明彦			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1 年次以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 造形計画 2 は、美術/デザイン/工芸など既存の芸術区分の手前で、日常の経験や環境から新たな認識と表現の可能性をひき出す方法を探り、自らの制作研究にフィードバックしつつ、芸術と日常、芸術と社会の新たな接続をはかることを目標とする。</p> <p><b>【授業概要】</b> 【部屋へ/部屋から】日常から非日常まで、私的空間から公共空間まで、外部から仕切られた内部空間としての「部屋」について、理論的かつ実践的に研究し、新たな表現の可能性を探る。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション～「部屋」について</td> <td>9. リサーチと報告「こんなへや」(2)</td> </tr> <tr> <td>2. 部屋の空間論</td> <td>10. リサーチと報告「こんなへや」(3)</td> </tr> <tr> <td>3. 日本の建築文化における部屋</td> <td>11. 演習 (3) : 「へや」をつくる</td> </tr> <tr> <td>4. 「部屋」とその表現～歴史編</td> <td>12. プレゼンテーション「へや」(1)</td> </tr> <tr> <td>5. 「部屋」とその表現～現代編</td> <td>13. プレゼンテーション「へや」(2)</td> </tr> <tr> <td>6. 演習 (1) : ドームをつくる</td> <td>14. プレゼンテーション「へや」(3)</td> </tr> <tr> <td>7. 演習 (2) : 部屋の分析</td> <td>15. 総括とディスカッション</td> </tr> <tr> <td>8. リサーチと報告「こんなへや」(1)</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 授業への参加度、課題への取り組み、発表内容、レポート等によって総合的に評価する。試験は行なわない。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 講義だけではなく、演習や制作実習を含む実践的授業である。旺盛な好奇心と創作意欲が必要。</p> <p><b>【教科書】</b> なし。原則として毎回プリントを配布する。</p> <p><b>【参考書等】</b> 鴨長明『方丈記』、ガストン・バシュラール『空間の詩学』、クリストファー・アレキサンダー『パタン・ランゲージ』、オギュスタン・ベルク『空間の日本文化』ほか</p> <p>※備考 進行に応じて授業計画は変更されうる。全体として成果があれば、展覧会等のかたちで発表することもありえる。</p>						1. イントロダクション～「部屋」について	9. リサーチと報告「こんなへや」(2)	2. 部屋の空間論	10. リサーチと報告「こんなへや」(3)	3. 日本の建築文化における部屋	11. 演習 (3) : 「へや」をつくる	4. 「部屋」とその表現～歴史編	12. プレゼンテーション「へや」(1)	5. 「部屋」とその表現～現代編	13. プレゼンテーション「へや」(2)	6. 演習 (1) : ドームをつくる	14. プレゼンテーション「へや」(3)	7. 演習 (2) : 部屋の分析	15. 総括とディスカッション	8. リサーチと報告「こんなへや」(1)	
1. イントロダクション～「部屋」について	9. リサーチと報告「こんなへや」(2)																				
2. 部屋の空間論	10. リサーチと報告「こんなへや」(3)																				
3. 日本の建築文化における部屋	11. 演習 (3) : 「へや」をつくる																				
4. 「部屋」とその表現～歴史編	12. プレゼンテーション「へや」(1)																				
5. 「部屋」とその表現～現代編	13. プレゼンテーション「へや」(2)																				
6. 演習 (1) : ドームをつくる	14. プレゼンテーション「へや」(3)																				
7. 演習 (2) : 部屋の分析	15. 総括とディスカッション																				
8. リサーチと報告「こんなへや」(1)																					